

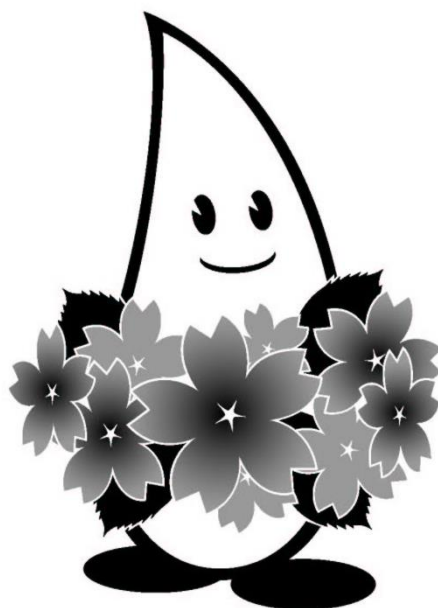
# 伊那市立中学校部活動

## 地域移行に係る推進計画

『 協創と協働 』

地域ぐるみでつくる “ 地域のクラブ ”

～ For 中学生 ～



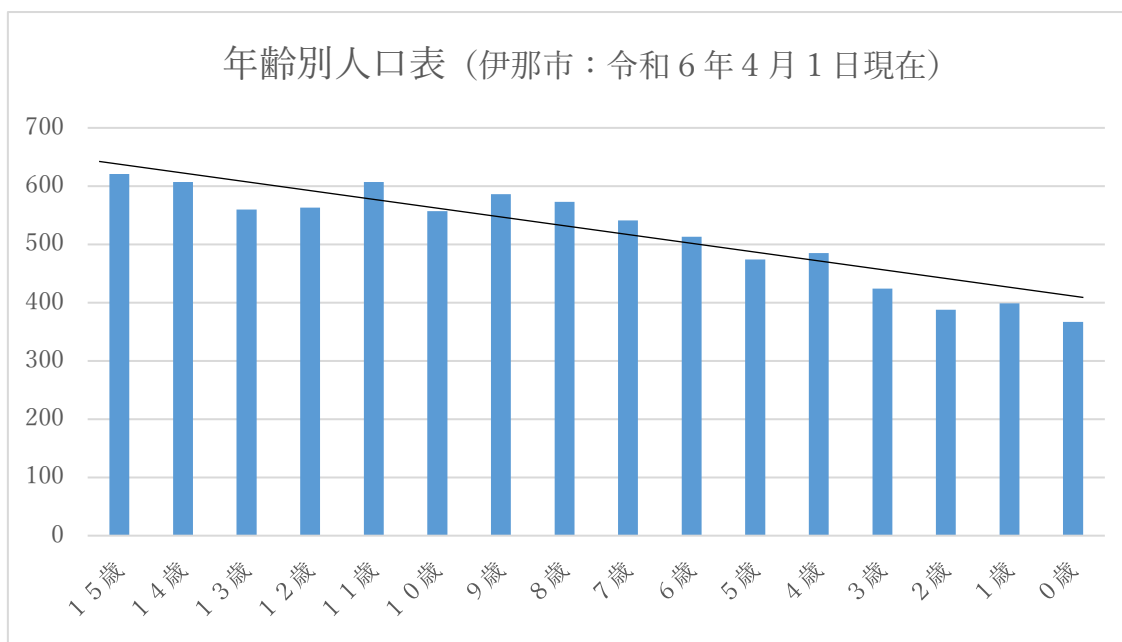
伊那市  
INA CITY

# 伊那市立中学校部活動の地域移行に係る推進計画

(ガイドライン)

## 1 伊那市の現状

### (1) 少子化の進行



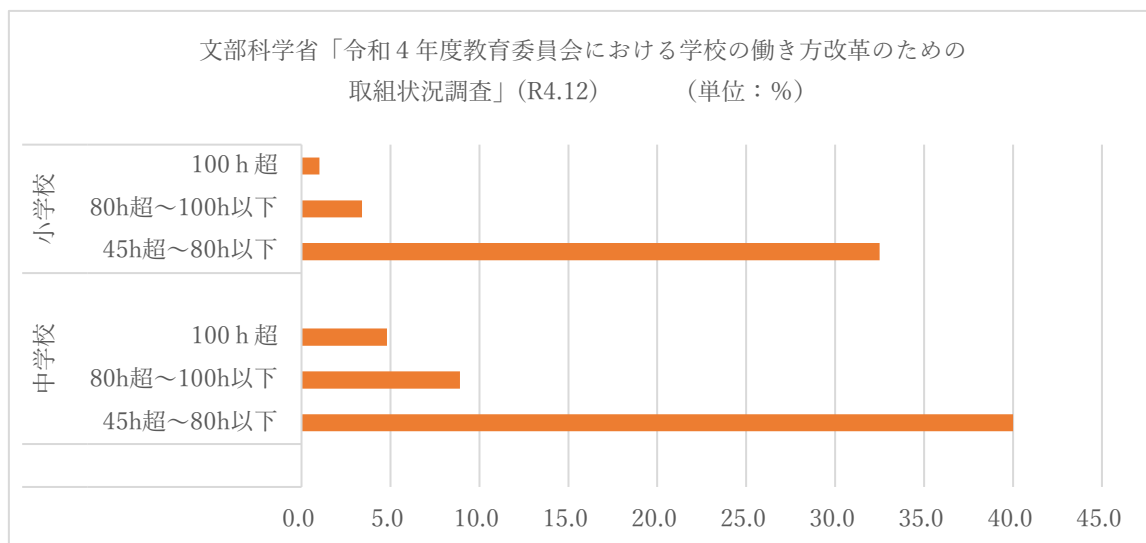
令和6年4月1日現在の伊那市の15歳の人数は621名、同現在の0歳的人数は367名です。15年間に出生数が254名のマイナスになっています。

このような少子化の進行により、市立中学校の生徒数は減少し、10年後には、約400名の減となりそうです。令和6年現在の中学生は、約1,700名ですので、10年後は、約1,300名程になることが予想されます。更に15年後には約600名の減となり、伊那市全体の中学生の総数が1,000名を切るのもそう遠くない時期にきている、といえます。

そのため、生徒数が減少していく学校では、サッカーや野球のように、大人数で行うチームの編成が難しくなると共に、生徒数の減少・学級数の減少に伴いその学校に勤務する教員数が限られてくることにより、学校部活動（以下「部活動」という。）の顧問の配置や生徒の希望に応じた部活動の設置ができにくくなることが予想されます。

今後も更に少子化の傾向はより顕著になっていくと考えられます。したがって、中学校の部活動を、今のまま継続していくことは困難であり、新しい視点にたった持続可能な体制の構築が求められています。そのための考え方の転換（パラダイムシフト）が求められています。

## (2) 教師の働き方改革と学校改革



月に45時間以上の時間外勤務を行っている教師の長時間労働問題の解決は、喫緊の課題です。特に部活動は、「教師の献身的な勤務によって支えられてきており、長時間勤務の要因であることや、特に、指導経験がない教師には、多大な負担となっている」（文部科学省『学校の働き方改革を踏まえた部活動改革』令和2年9月）と指摘されています。

令和4年度の文部科学省の調査では、中学校の教師の50%以上が、1ヶ月の時間外勤務の上限とされている45時間を超えている状況です。この要因の一つに部活動指導が考えられます。

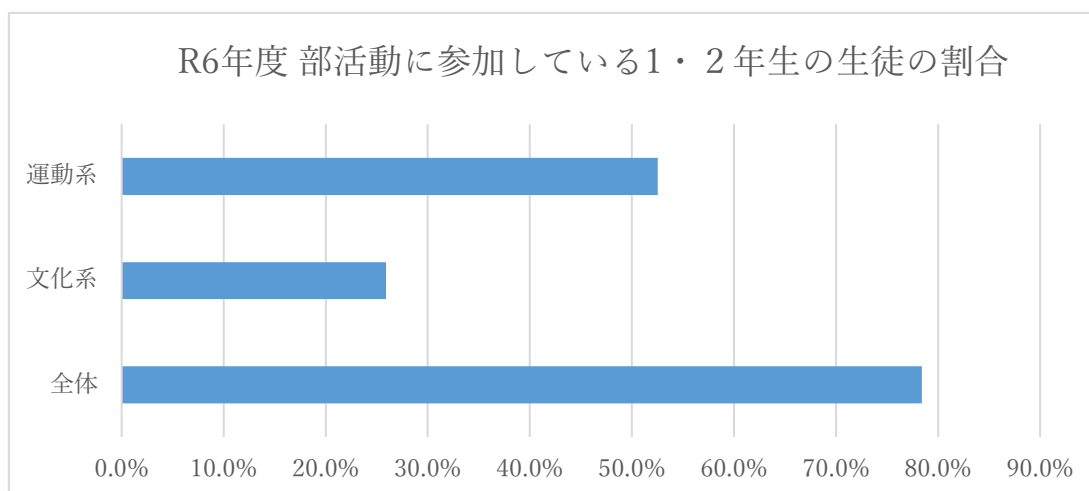
また、令和3年度の長野県教育委員会の調査では、担当する運動部活動の種目経験者は、全体の39%しかいません。したがって、部活動の顧問の61%は、その種目の活動経験がない中で指導している、ということになります。このことにより、時間的・身体的負担のみならず、精神的な負担も感じている教師が多数いると推察されます。

長野県教育委員会は、第4次長野県教育振興基本計画のなかで、「学習者主体の学校づくりに向けた魅力化・特色化」や「探求を核とした学びを推進するための教師自らが学ぶ研修の充実、教職員の資質向上」を掲げています。

また、伊那市では、教育理念として「はじめに子どもありき」を謳い、子どもファーストの教育の構築を目指しています。教育大綱（第2次伊那市総合計画第3章第5節）では、「教育の営みが、一人に確かに届き、次の時代を担う子どもが、その子の可能性いっぱい成長していけるようにしたい」としています。

そこで、部活動の地域連携・移行を図り、教師の負担を軽減すると共に、学校の本来の使命である「生徒のための授業改善や学校改革」が、自ら学ぶ教師によって推進されるよう、環境を整えていきます。

### (3) 部活動に参加している中学生



令和6年6月現在、市内の中学校の1・2年生は合計1,108名で、そのうち部活動に参加している生徒数は、運動系・文化系を合わせると869名(78.4%)です。内訳は、運動系が582名(52.5%)、文化系が287名(25.9%)となっています。

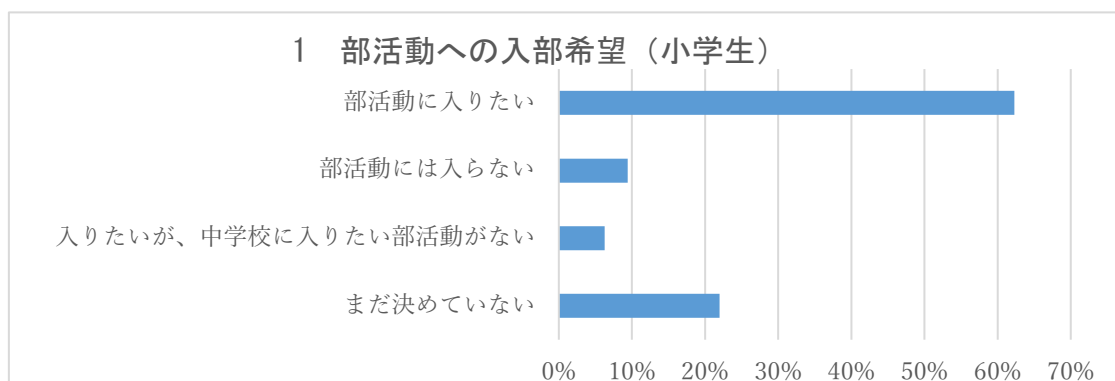
この中には、学校には部活動はないが、地域のクラブで活動している生徒も含まれています。

現在、伊那市内の中学校に設置されている運動系の活動は14種目、文化系の活動は、7分野となっています。運動系では、男女別に活動している部がありますので、部活動の数では、もっとたくさんになります。

これらの部活動を地域クラブに移行していくには、多くの皆様のご理解とご協力、それに加えて、皆様の様々な経験などに基づくご英知が必要になります。そこで、市内の関係機関などとの連携を図り、生徒の望む活動ができるよう、環境を整えていきます。

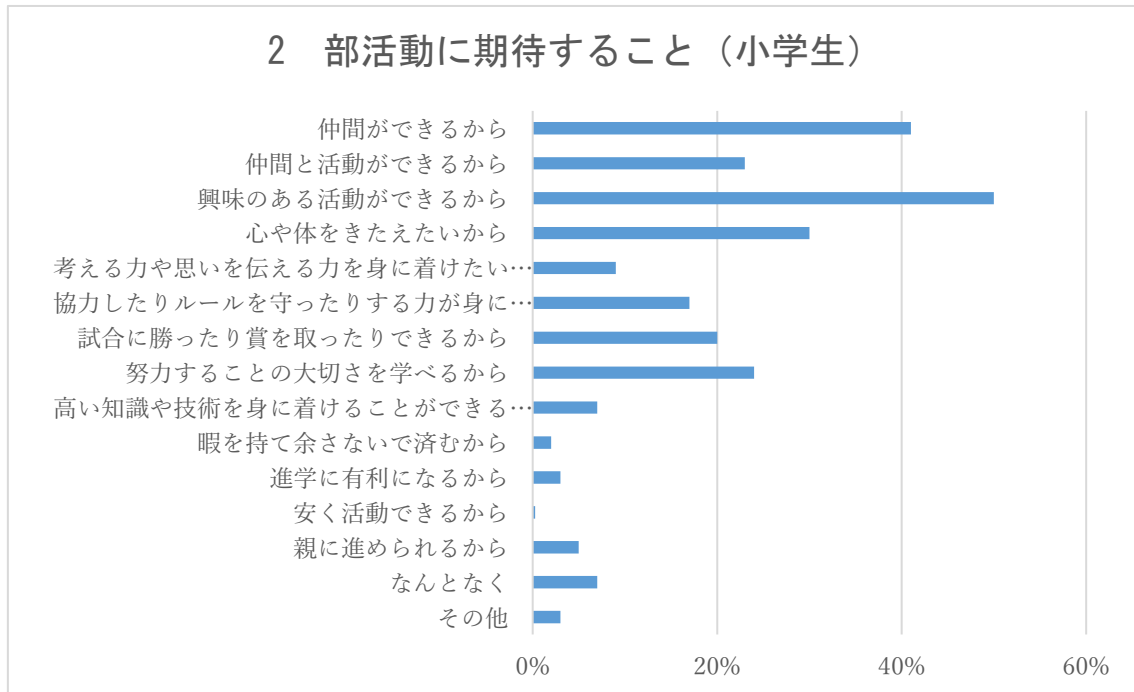
### (4) 部活動の地域移行の課題(アンケート調査の結果から)

#### <小学生へのアンケートから>



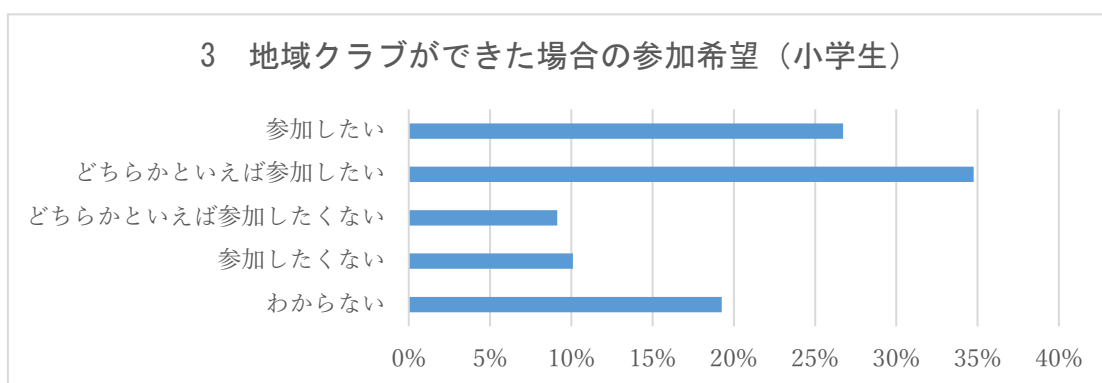
60%以上の小学生は、「部活動に入りたい」と思っているが、「まだ決めてない」という児童もいるのが現状です。また「入りたい部活動がない」という児童が6%程度います。

望む活動ができない、という意見に対しては、可能な範囲で検討していく必要があります。



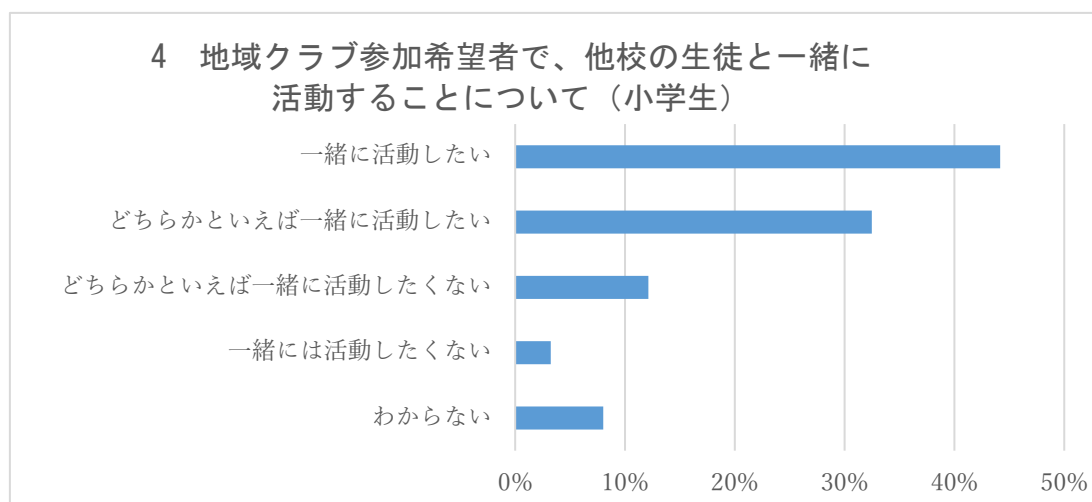
部活動に対して、様々な思いや願いをもっていることがわかり、積極的な気持ちで中学校生活（部活動）を始めようとしている姿が浮かびます。

興味のある活動を通して、仲間づくりや心身の健康づくり、精進することの大切さなどの自己肯定感を高められる共に、社会性を育てていくことができれば、児童の期待に応えられる活動になると考えます。「興味ある活動ができる」ことがキーワードです。



地域クラブができた場合、その活動に「参加したい」「どちらかといえば参加したい」と思っている児童は、60%を超えます。しかし、「わからない」という児童も約20%います。

地域クラブの実態が明確になっていない中ですが、そこでの活動を希望する児童が相当数いる、という実態は、考慮すべき視点であると思います。



希望する地域クラブは、入学する中学校を会場に行っているとは限りません。場合によっては、通っていない学校や場所で、違う学校の友だちと活動することも想定されます。

そのとき、他の学校の友だちと「一緒に活動したい」「どちらかといえば一緒に活動したい」と思っている児童は、70%を超えます。

このことから、場所は違っても「興味ある活動をしたい」と願う児童が多いといえます。

#### ＜小学生へのアンケートのまとめ＞

- 部活動に「参加したい」と願う児童が多い。

現在児童が見聞きしている部活動へのイメージは、長い歴史の中で育くまれまた部活動が担ってきた役割をプラスにとらえていると考えられます。きょうだいや先輩などが育ってきた過程に、部活動が寄与していた、と考えることができると思います。

部活動を経験したことのない児童にとっては、不確かな部分があることは事実です。そのことを考慮しながらプラス面の参加意欲を確かめ、今後の指針（方向検討）にしていく必要があると思います。

- 地域クラブがあれば、「参加したい」と願う児童が多い。

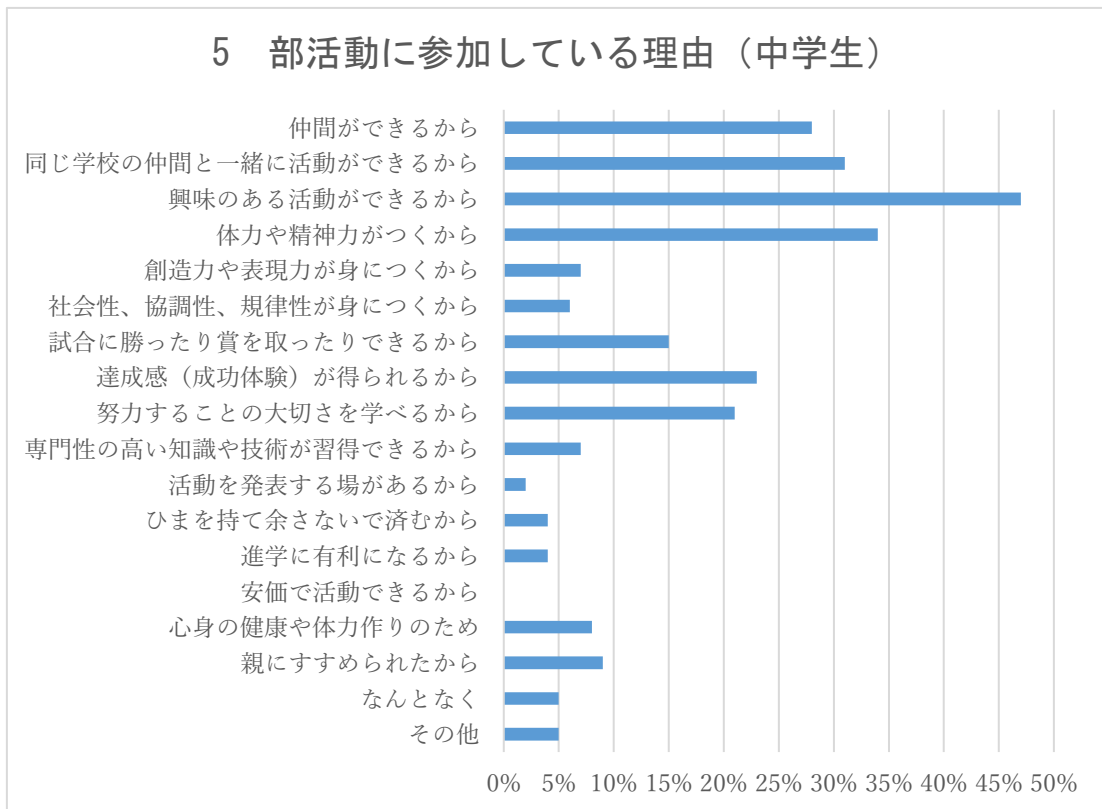
スポーツ少年団や各種スポーツ活動、地域の文化活動、けいこごとなどに参加している児童も多いと考えられます。

その活動の中で得られた達成感や自己有用感などの高まりが、学校部活動や地域クラブへの参加意欲につながっているとも考えられます。検証していく必要はあると思いますが、小学生の育成という面で、長い伝統や試行錯誤により、地域の様々な方々が、様々な方法で力を尽くしていることが伺われます。

一方で、学校部活動への参加について「決めてない」や地域クラブへの参加について、「わからない」児童へのアプローチをどうするか。

参加することの良さや活動することの充実感などについて、啓発していくことが大切であると考えられます。

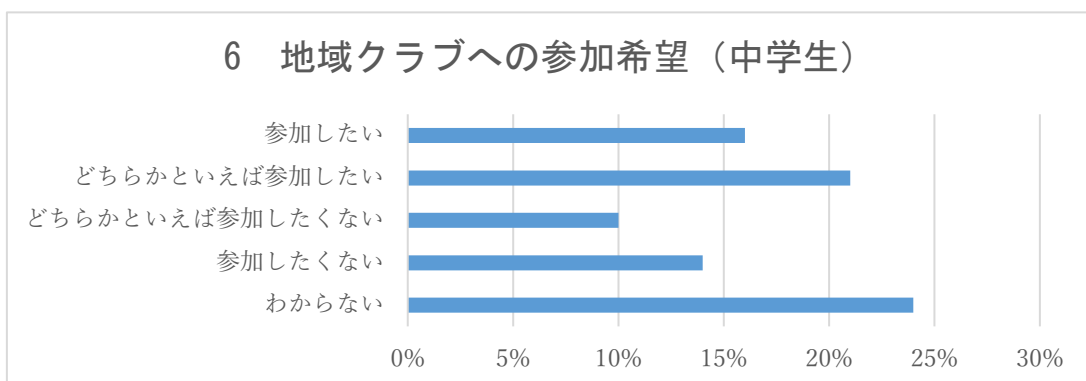
## ＜中学生へのアンケートから＞



「興味ある活動ができる」「体力や精神力がつく」という理由から部活動に参加している生徒が多くいます。しかし、「同じ学校の仲間と一緒に活動ができるから」という視点については、中学生（約31%）の方が小学生（約10%）より多いというのも実態です。

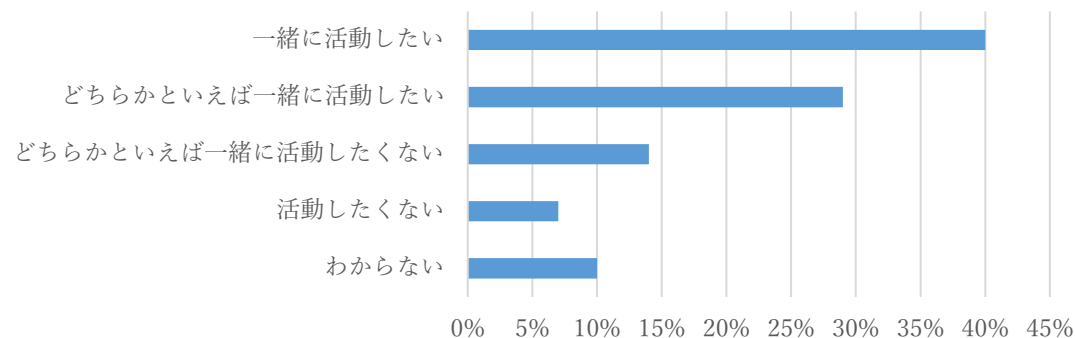
また、小学生の選択肢にはありませんが、「達成感（成功体験）が得られるから」という回答も多いという実態があります。

実際に活動している中学生からみた視点「同じ学校の仲間との活動」や「成就感」「努力することの大切さ」の体感がポイントとなると思われます。



地域クラブができれば「参加したい」「どちらかといえば参加したい」と答えた生徒は、約37%でした。小学生の約60%と比較すると、地域クラブへの参加意欲は、半分程度になっています。このことをどう評価するか。一つの大きな視点になりそうです。

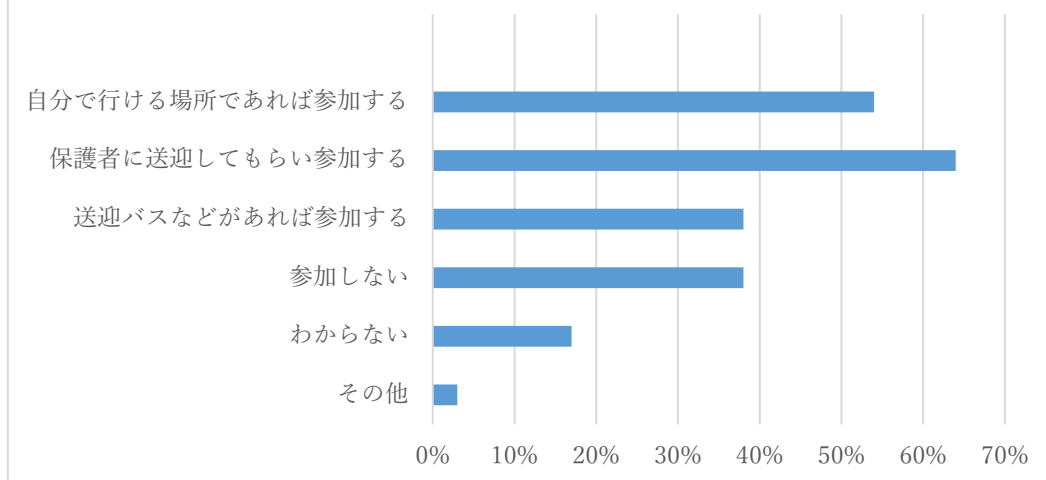
### 7 地域クラブ参加希望者の中で 他校と活動することについて（中学生）



地域クラブができた場合、参加を希望する生徒の中では、他校の生徒と「一緒に活動したい」「どちらかといえば一緒に活動したい」と思っている生徒は、約70%です。

逆に「どちらかといえば一緒に活動したくない」「一緒に活動したくない」と思っている生徒も約20%いる、という実態もあります。

### 8 地域クラブが遠方の場合（中学生）



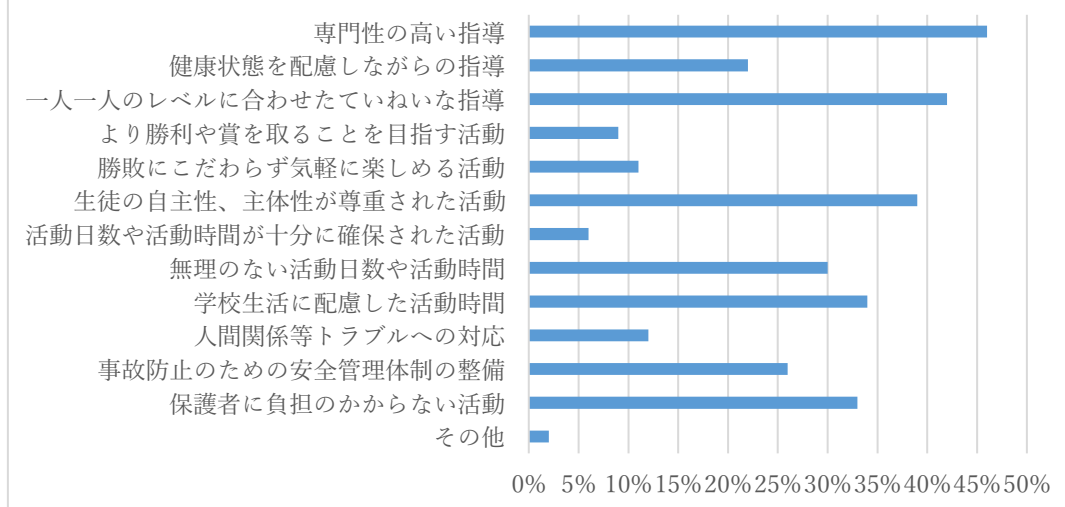
生徒の自力での移動手段は、「徒歩」か「自転車」です。生徒は、できれば「自力で」思うのが当然ですが、できない場合は「保護者に送迎してもらおう」と考えるのは自然な考え方です。但し、それは、保護者が土日に送迎する時間と手段がある、ことが前提です。

できるだけ生徒の自宅の近くで活動が行われるように考えることも、重要な視点になると思われます。

また、送迎バスなど公的交通機関などの整備も、必要によっては考慮していく視点にもなりそうです。



## 9 地域クラブの指導者に望むこと（中学生）



生徒が指導者に望むのは「専門性の高い指導」が第一に挙げられていますが、「一人一人のレベルに合わせた丁寧な指導」「生徒の自主性、主体性が尊重された活動」も多く多くの生徒が望んでいます。また、「学校生活への配慮」や「保護者に負担のかからない活動」を望んでいます。

このことは、「生徒の生活の基盤は家庭」にあり「生徒の生活の中心は学校」である、その上にたった地域クラブであるといえそうです。

生徒自身の地域クラブ活動を含めた学校生活を充実させるには、まず、生活の基盤の確立、学校生活の充実が優先である、と生徒は考えているといえます。

### <中学生へのアンケートのまとめ>

- 生徒の学校部活動への参加意欲を感じる。

現在の活動が充実していると感じます。能動的な活動により、それができているということは、仲間や指導者に恵まれていること、また、それを支える保護者などの力添えが大きいと考えられます。

部活動の所期の目的は達成されていると判断できそうです。

- 地域クラブへ参加を希望する生徒は、小学生児童より少ない。

経験したことのない未知の活動に対して、生徒にはその参加について慎重な考え方があられるかもしれません。それぞれの生徒の学校生活に配慮した活動、自己有用感や矜持などを大切に活動について、指導者など関係者の生徒の心情に配慮した研修の充実と共に、生徒への丁寧な説明が必要になると思われます。

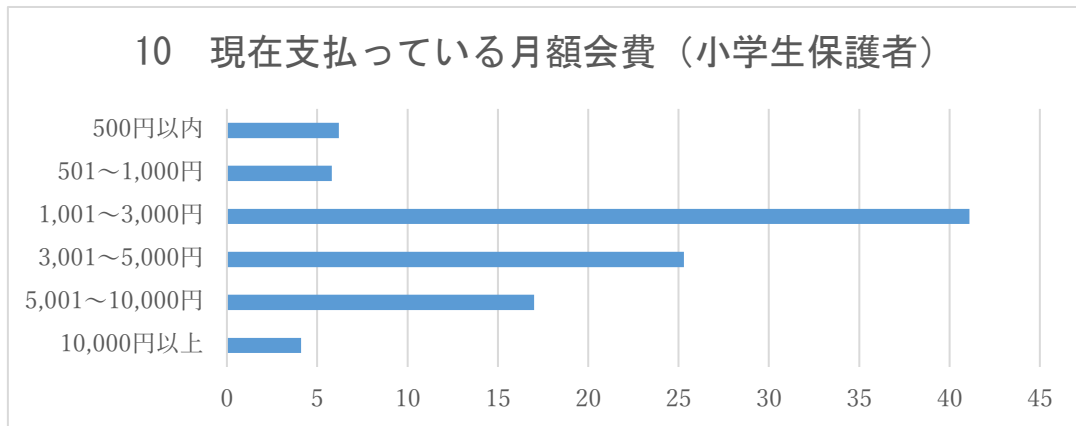
- 地域クラブに参加する場合の交通手段は、自力または保護者の送迎が多い。

自分で活動場所に行けること（徒歩や自転車）が重要な要素になりそうです。また、それができない場合、「保護者の送迎」が重要な移動手段になります。「保護者の送迎」となると、保護者がその時間、子どものために費やす時間を確保できることがポイント

トです。

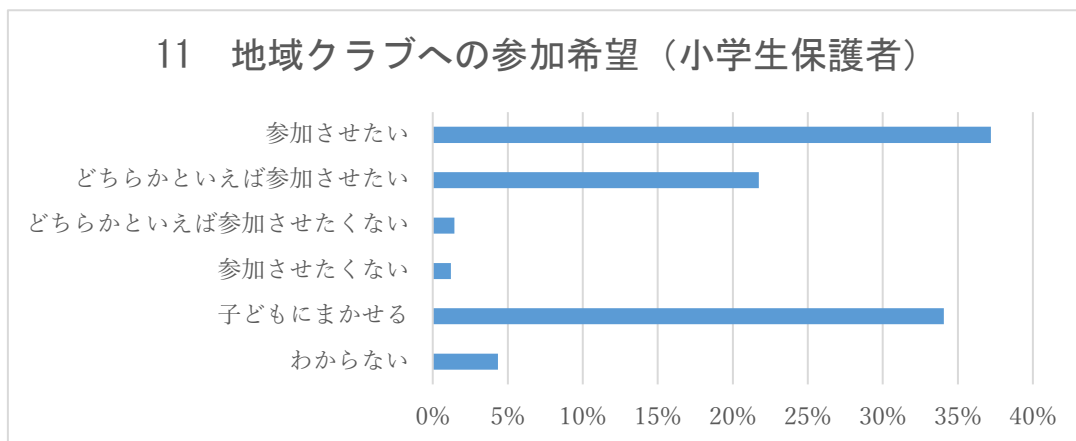
「保護者に負担のかからない活動」を望む生徒が30%強いますが、この内容は、時間の負担や経費の負担などを考えているものと推察されます。

#### ＜小学生の保護者へのアンケートから＞



現在支払っている月額会費は、1,000～5,000円程度が多いという結果になりました。

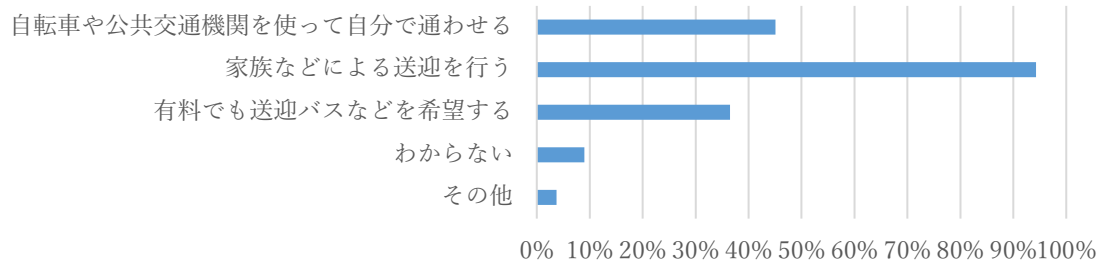
小学校に部活動は殆どないので、児童が通う地域のクラブやけいごとなどの会費として支払っている金額と判断できそうです。



地域クラブに参加させたいか、については、「参加させたい」「どちらかといえば参加させたい」と答えた保護者は、約60%になります。「参加させたくない」「どちらかといえば参加させたくない」という答えは少数でした。また、「子どもに任せる」と答えた保護者は、34%でした。

子どもが「参加したい」と願えば、地域クラブに参加させたいと思う保護者を考慮すれば、地域クラブに参加を希望する児童は、相当数になると考えられます。

## 12 地域クラブへの参加方法（交通手段）（小学生保護者）

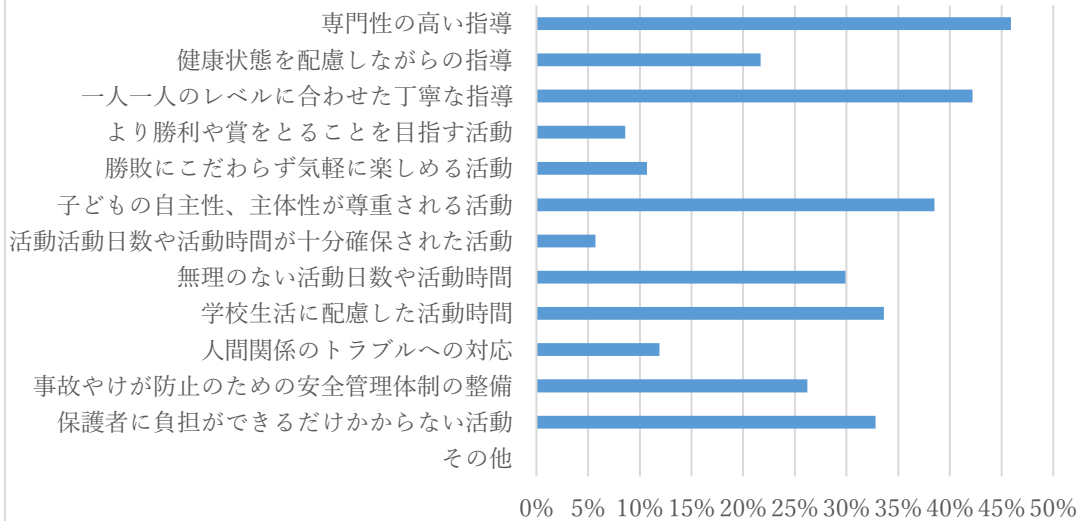


複数回答ではありますが、地域クラブへの交通手段は、「保護者の送迎」がたいへん多い状況でした。

このことは、保護者の地域クラブ活動への参加に対する期待の高さがうかがわれますが、保護者の負担も懸念されるともいえます。

「有料でも送迎バスなどを希望する」保護者が、30%強います。保護者の家庭状況や勤務などの状況に応じた支援も考慮すべき視点になりそうです。

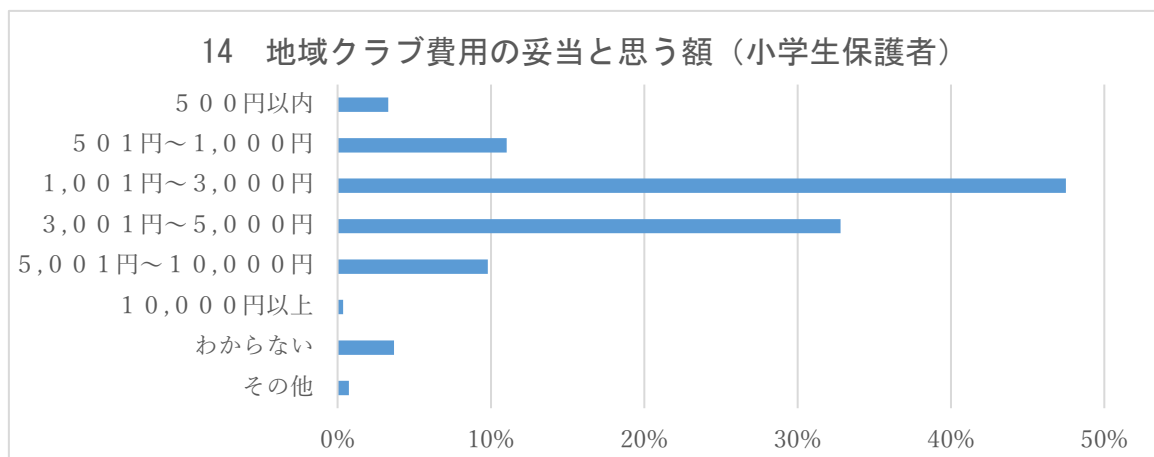
## 13 地域クラブの指導者に望むこと（小学生保護者）



保護者は、「専門性の高い指導」であり「一人一人のレベルに合わせた丁寧な活動」を望んでいるということがわかります。

合わせて、「子どもの自主性、主体性が尊重された活動」や「無理のない活動日数」で「学校生活に配慮した活動時間」を願っています。また、「保護者に負担がかからない活動」も望んでいるという実態もあります。

子どもの心理面に配慮した指導形態や指導法について、また、保護者の負担軽減について考えていく必要があります。



現在支払っている月額会費と同様、1,000円から5,000円が妥当だと考えている保護者が多いことがわかります。

#### <小学生の保護者へのアンケートのまとめ>

- 現在支払っている月額会費は、1,000円から5,000円が多い。また、地域クラブ費用の妥当な額も、およそ同額と考えている保護者が多い。

年間に換算すると、12,000円から60,000円の費用を支払っている、といえます。活動によって支払う費用の幅が広いといえます。

これに個人で負担する衣服類や用具類などの費用を加算すると、相当額になると思われます。また、子どもが活動している種類によっても、その費用の差はあると考えられます。

- 地域クラブへの移動手段については、保護者の送迎が多い。

子どもが自力で通えなければ、保護者が送迎することも必要になります。そのためには、保護者が土日を送迎する時間などがある必要があります。

「保護者にできるだけ負担がかからない」という願いから、活動場所の選定には、考慮すべきことがあります。また、公的交通機関の設定についても、検討する必要があります。

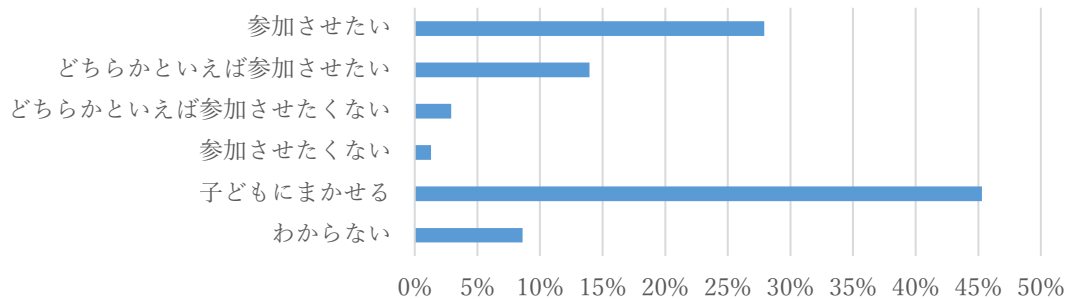
- 高い専門性と適切なコンプライアンス意識など、子どもの育ちに好感的で親近感のある指導者を求めている。

指導するその分野に関する思いや技術などをもっていることは必要な条件になると思われますが、それに加えてコンプライアンス意識や子どもの育ちを前向きにとらえ、根気よく丁寧に指導するといった指導者の資質が問われていると思います。

研修を受けて取得した資格（協会の指導者資格など）を所有していることも、信頼される指導者の条件に加えられる視点だと思われます。

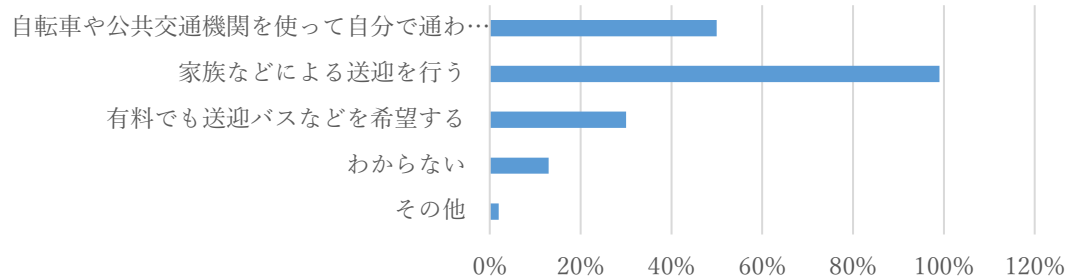
## ＜中学生の保護者へのアンケートから＞

### 15 地域クラブへの参加希望（中学生保護者）



「参加させたい」「どちらかといえば参加させたい」と答えた保護者は、約40%です。また「子どもに任せる」という保護者は、45%です。これは、小学生の保護者と比較すると、「参加させたい」「どちらかといえば参加させたい」が少なく、「子どもに任せる」が多いという結果でした。

### 16 地域クラブへの参加方法（交通手段）（中学生保護者）



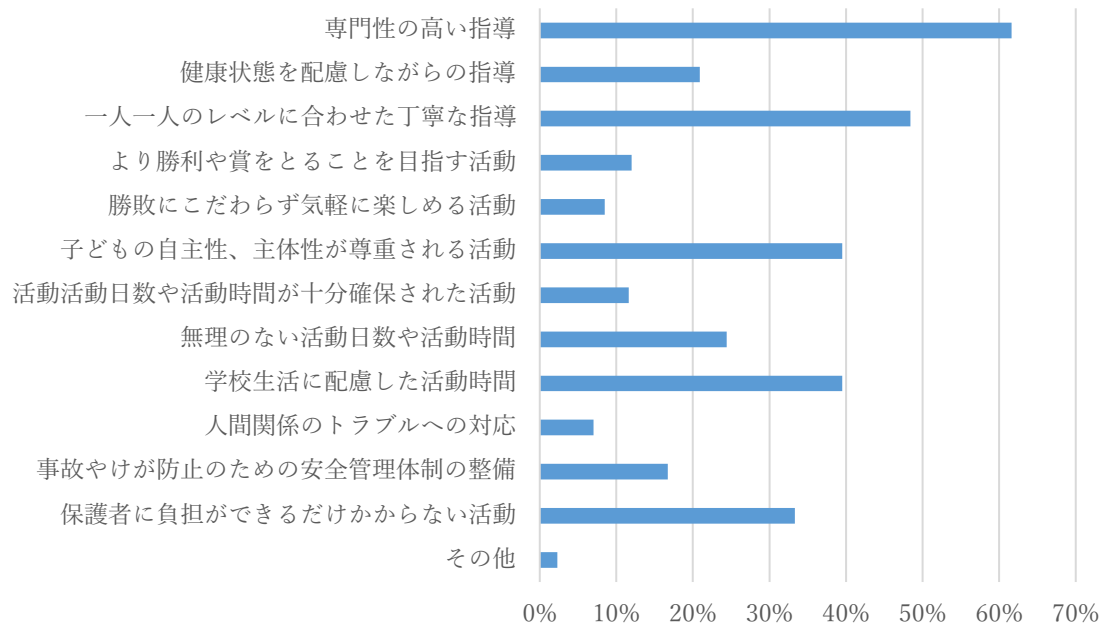
複数回答ですが、「家族などによる送迎を行う」が非常に多く、ほぼ100%になっています。小学生の保護者と同様の結果でした。

生徒の安全性やクラブ活動に費やす以外の時間の確保が、保護者の考え方にあるのでしょうか。

「有料でも送迎バスなどを希望する」保護者は、小学生の保護者同様、30%います。

小学生の保護者の意見同様、中学生の保護者の意見についても、保護者の思いを勘案しながら、家庭状況や勤務などの状況により「保護者負担の軽減」について、考えていく必要はあります。

## 17 地域クラブの指導者に望むこと（中学生保護者）

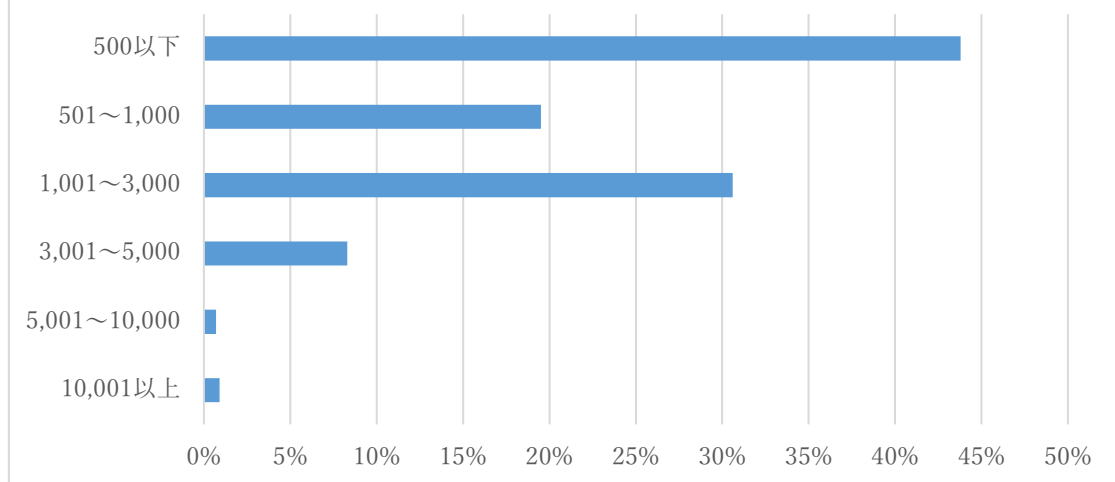


「専門性の高い指導」「一人一人のレベルに合わせた丁寧な指導」を望んでいる保護者が多いことがわかります。

また、「子どもの自主性、主体性が尊重される活動」や「学校生活に配慮した活動時間」を望んでいる保護者が多数います。

「保護者に負担ができるだけかからない活動」は、考慮すべき視点です。

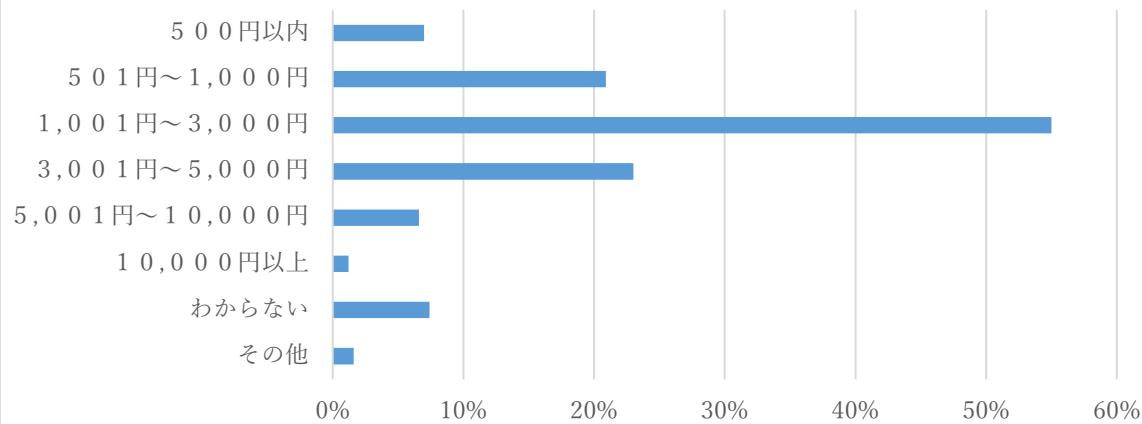
## 18 部活動の活動費の月額（中学生保護者）



現在支払っている部活動の活動費は、3,000円以下が約90%です。但し、個人で負担する衣服代や道具代などは含まれていません。

現在の部活動は、比較的安価で行われていることがわかります。

19 地域クラブ費用の妥当と思う額（中学生保護者）



「地域クラブ費用の妥当と思う額」は、5,000円以下と考えている保護者が多いようです。現在支払っている部活動の活動費より、多くなることは仕方がない、と考えている保護者が多いようです。

#### ＜中学生の保護者へのアンケートのまとめ＞

- 地域クラブへの参加は、「子どもに任せる」が多い。

学校部活動を経験している中学生の保護者は、土日の地域クラブでの活動については、「子どもに任せる」が多いようです。

「子どもに任せる」ということは、子どもの自主性・主体性を大切にするということであり、まさに部活動の育てたい姿の一つと考えられます。

部活動を経験している生徒の保護者の実感として捉えられるものだと思います。

- 地域クラブに期待することは、「一人一人のレベルに合わせた」「丁寧で」「専門性の高い指導」である。

地域クラブに、保護者が求める姿は、「個のレベルに応じた丁寧で専門性の高い指導」という点だと考えられます。

部活動ではなかなか得られない「専門性の高い指導」は、地域クラブの指導者の質に関わる問題です。

しかし、「一人一人のレベルに合わせた指導」は、「専門性が高い指導」だけを意味するとは限りません。一人一人の思いや願いに即した指導は、幅の広い活動や指導を意味するものでもあります。

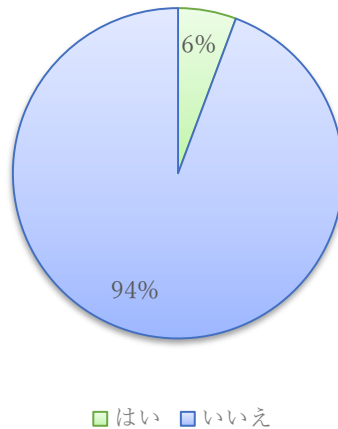
- 地域クラブ費用の妥当な額は3,000円から5,000円が多い。

これは、小学生の保護者と同様です。しかし、現在支払っている部活動の活動費より、多額になります。

活動費について、部活動より多少の増額は仕方ないことだと思いますが、できるだけ廉価の設定を考える必要があると考えられます。

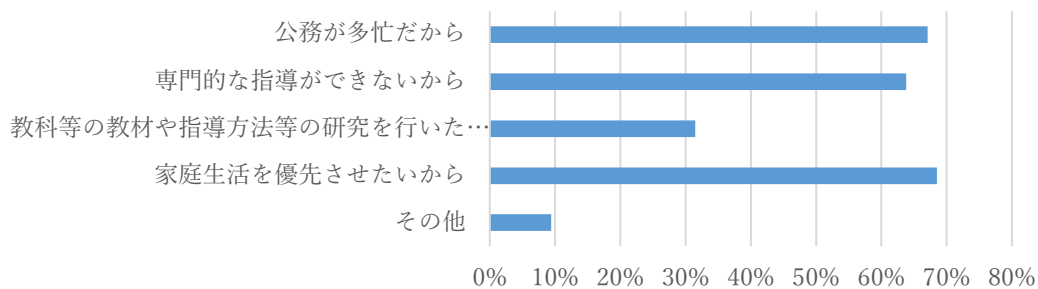
## ＜小学校の教職員へのアンケートから＞

### 20 地域クラブの指導希望者（小学校教職員）



「地域クラブで指導者として関わりたい」と考えている小学校の教職員は、6 %と少ないのが現状です。

### 21 地域クラブの指導を希望しない理由（小学校教職員）



「地域クラブの指導を希望しない」理由は、日々が「忙しい」ことによる「家庭生活」へのしわ寄せがあったり、「専門的な指導ができない」ことによる様々な思いがあったりすることがわかります。

## ＜小学校の教職員へのアンケートのまとめ＞

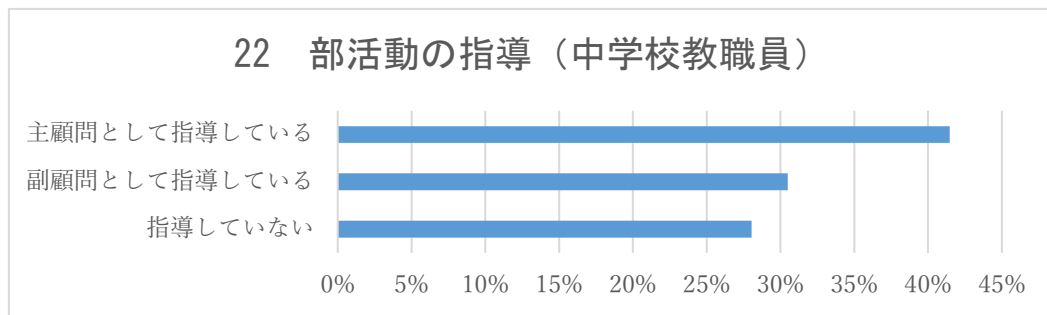
- 小学校の教職員の地域クラブの指導者要請は、難しい。

アンケートからは、地域クラブの指導者をお願いすることは、難しい実情が表れています。

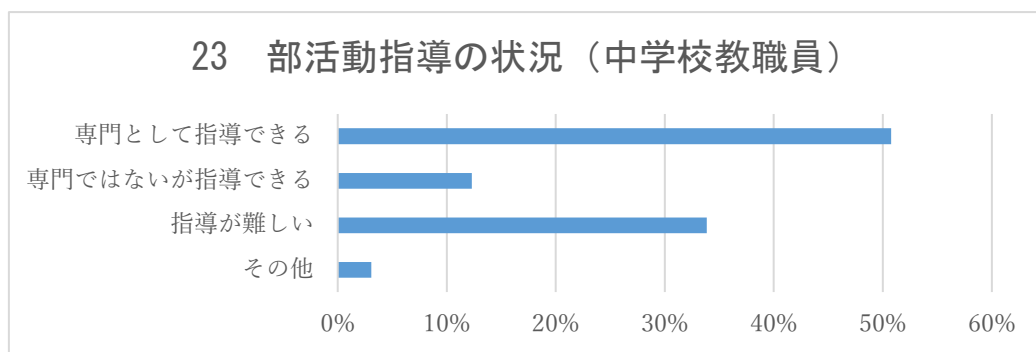
思いを考慮し、また、教職員の働き方改革を推進しながら、子どもたちの育ちに具体的に関与している教職員という特性や技能などを生かし、可能な場合には出身地（地域）で子どもたちを指導するということの社会的な意味を啓発していくことも必要だと思われます。



## ＜中学校の教職員へのアンケートから＞

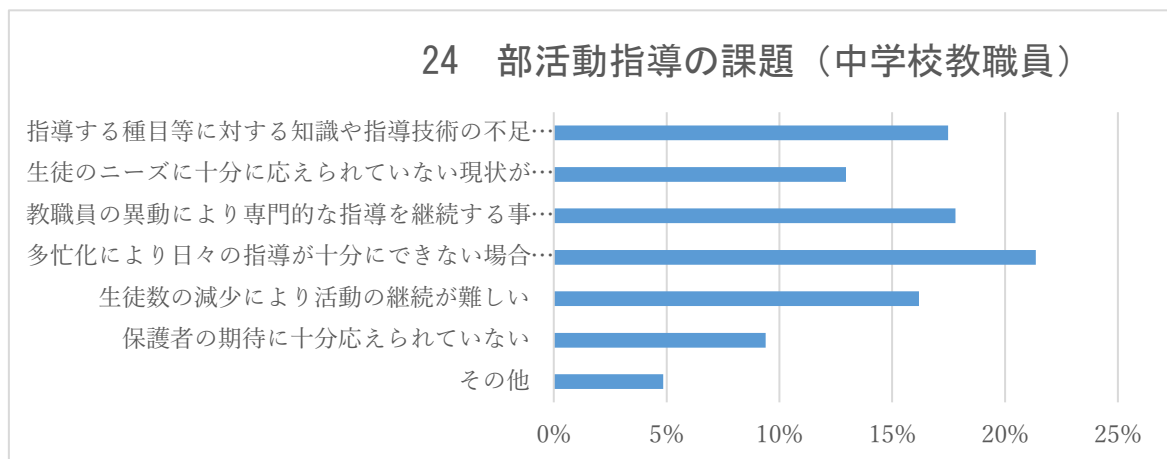


70%以上の教職員が、主顧問・副顧問として学校部活動の指導をしています。



「専門として指導できる」「専門ではないが指導できる」という教職員は、約60%います。

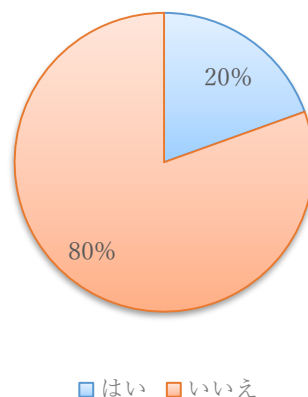
反面、部活動の顧問ではあるが「指導が難しい」と思っている教職員は、30%を超えています。



「多忙化により日々の指導が十分にできない場合がある」という教職員が20%を超えています。

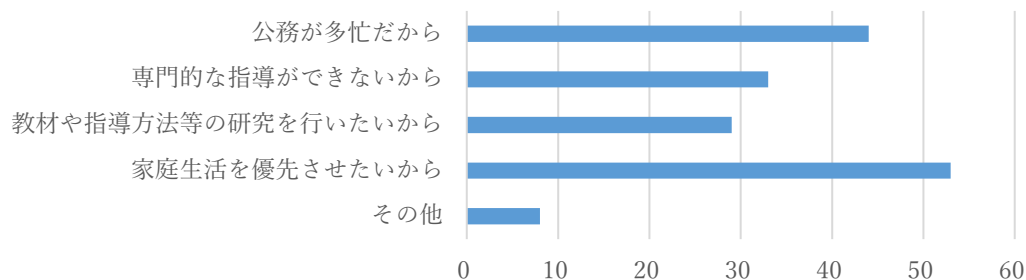
また、「教職員の異動により専門的な指導を継続することができない」「指導する種目などに対する知識や指導技術の不足」と答えた教職員は、15%を超えています。

## 25 地域クラブの指導希望者（中学校教職員）



地域クラブの指導を希望する中学校教職員は、小学校教職員と同様少ないのが現状です。

## 26 地域クラブの指導を希望しない理由（中学校教職員）



「地域クラブの指導を希望しない」理由は、小学校教職員と同様、日々が「忙しい」ことによる「家庭生活」へのしわ寄せがあったり、「専門的な指導ができない」ことによる様々な思い（悩み）があったりすることがわかります。

### <中学校の教職員へのアンケートのまとめ>

- 部活動について、様々な理由により「負担（感）」を感じている教職員が多い。  
実際に部活動の顧問に就いている教職員が多い中学校教職員の負担（感）は、高いと思われます。
- 平日を含め、教職員の負担（感）を軽減するための抜本的な部活動の転換が必要。  
教育課程外である部活動が、教員の献身的な勤務によって今まで担ってきた役割を再検討し、「地域ぐるみで子どもを育てる」というスタンスにたった部活動（地域活動）を構築していくことは、急務です。  
中学校に限らず小学校の教職員も含めて、「地域クラブの指導をしてもよい」と思える「働き方改革」を実現していくことは、社会に課せられた大きな課題です。

## 2 基本方針と目標

### (1) 基本方針

部活動は、学習指導要領にも記載され、生徒が学校という身近な場所で、スポーツ・文化芸術活動に親しみながら、その達成感や成就感、また友や指導者などとの連帯感を育んできました。これは、日本独特の文化として今日まで定着してきたものです。

しかし「1 伊那市の現状」で触れた通り、少子化や教員の働き方改革の流れから、これまでの構図を見直す必要がでてきています。

これまで部活動が担ってきたこの文化を、部活動の地域連携・地域移行することにより、生徒が希望する活動を自分らしく可能性いっぱい取り組むことができるようにすると共に、地域社会の教育力向上及び心豊かな人を育むまちづくりへのチャンスと捉え、アンケート結果を踏まえ中学生を含めた地域社会（社会教育）の振興を図ります。

そのために、生徒が希望したときに自分らしく活動することができる、身近にあるスポーツ・文化芸術活動の環境整備に努めます。

### (2) 目標

※ 基本方針を基軸にした目標は、以下のとおりです。

- 生涯にわたって親しむことができるスポーツ・文化芸術活動の環境整備を目指します。
  - 多様な運営団体・実施主体による様々なスポーツ・文化芸術活動の展開を目指します。
  - 適正な活動による持続可能なスポーツ・文化芸術活動の運営体制の構築を目指します。
  - 休日の部活動の地域移行と共に可能な限り平日を含めた部活動の地域移行の早期実現を目指します。
- ※ 休日の部活動の地域移行は、地域や学校の実情に応じ、令和8年度末を目途に移行完了を目指します。

## 3 地域クラブの運営方針

### (1) 目的 「はじめに子どもありき」

※ 伊那市の教育理念「はじめに子どもありき」を念頭に、次のことを地域クラブ運営の目的とします。

- 希望する活動を通して、青少年が豊かに学び豊かに育つことを目的とします。
- 中学生と活動を共にすることを通して、地域社会の教育力の向上及び地域社会の有機的な繋がりを深化・進展させていくことを目的とします。

## (2) 対象者

- 伊那市在住の全ての中学生とします。
- 伊那市以外に居住する中学生の希望者も受け入れます。

## (3) 活動の運営団体と実施主体

- 国のガイドラインでは、地域クラブの運営団体や活動の実施主体について、総合型地域スポーツクラブ、文化芸術団体、スポーツ協会、競技団体、クラブチーム、プロスポーツクラブ、民間事業者、大学などのほか、保護者会や同窓会、複数校が統合して作る団体、地方自治体が運営団体になるなど、多くの団体などを想定しています。
- 伊那市においては、スポーツ活動では、伊那市スポーツ協会や伊那市総合型地域スポーツクラブ、企業を主体とするクラブチームなどが活動しています。また、文化芸術分野では、合唱や吹奏楽・オーケストラなどの音楽活動や絵画や陶芸・演劇・書道などの美術芸術活動を行っている文化団体が、数多く活動しています。更に、公民館で活動している団体も多数あります。
- このような現在活動している様々な団体や組織・チームなどは、その基盤が確立しており、活動運営上のノウハウをもっているほか、有資格指導者なども多く組織されています。したがって、これらの団体などは、安定的なクラブ運営や適切な指導を行うことができるなど、地域クラブ活動の運営団体や実施主体となることが期待されます。
- 現在活動している地域クラブのほかに、新たな地域クラブを創設し、活動を創っていくということも想定されます。このような活動は、中学生の部活動を包括するという機会によって「地域ぐるみ」で地域のスポーツ・文化芸術活動を創るという意味から、地域の発展の底力になることが期待される考え方です。地域クラブの創設に参加参画することを通して、「ウェルビーイングの実現」や「地域の未来を協創する協働のまちづくり」に資することができる活動である、と期待されます。
- 伊那市では、多様な団体などが運営団体・実施主体となることを想定し、そのノウハウや知見などを共有しながら、地域の方々が地域の未来を協創し協働して「地域ぐるみ」で創る地域クラブの活性化と共に地域社会活動の深化・進展を目指します。

## (4) 持続可能な地域クラブ

- 規約や活動計画・収支計画、活動報告・決算などのクラブの願いや実情を適切に公表することを通して、クラブの透明性を担保し地域ぐるみで持続可能な地域クラブをつくることを目指します。
- 活動に係る安定的な財源確保や経費などについて、適切で持続可能な収支になるよう検討し、必要に応じて情報提供を行います。

#### (5) 指導者

- 県や市並びに各スポーツ団体や文化芸術団体などと連携し、専門性や資質能力の高い指導者の確保のための情報提供を行います。
- 県や市並びに各スポーツ団体や文化芸術団体などと連携し、適切な指導者の育成を図ります。
- 指導者資格などの取得を推奨すると共に地域クラブ活動における社会的教育的意味についての研修を通して、その資質の向上を図ります。
- 報酬を得て指導することができる教師の「兼職兼業」希望者について適切に判断し、教師の指導者の確保を目指します。
- 「生徒の教育に資する」という任務について理解し合い、研究と修養を重ねると共に、公序良俗に反する行為や言動などが認められる場合は、厳正に対処します。

#### (6) 事件・事故

- 地域クラブのクラブ員（会員）は、必ず傷害保険などに加入することとします。活動中の傷病などについては、その保険の範囲内で対応します。
- 活動中の事件・事故などの責任については、運営団体・実施主体及び個人が負うものとします。

#### (7) 活動内容

- 地域クラブには、競技力向上志向、体験・レクリエーション活動志向、シーズン活動志向及びその地域特有な活動志向など、運営団体及び実施主体が実施・運営可能で多様な活動を提案できるようにすることを目指します。

#### (8) 休養

- 地域クラブの休養日は、スポーツ庁・文化庁が示す平日 1 日、土日 1 日の週 2 日とします。
- 活動時間は、スポーツ庁・文化庁が示す平日は長くても一日 2 時間、休業日は、長くても一日 3 時間とします。
- 集中した休養期間を設けるために、クラブの特質によって、オフシーズンの設定を検討します。

#### (9) 活動の場所

- 運営団体及び実施主体と校長との検討により、校長が「部活動に準ずる」と判断した地域クラブは、当面市立中学校の施設などを活動の場所とします。
- 公共の文化スポーツ施設、社会教育施設のみならず民間の文化スポーツ施設なども活動ができる場所と想定します。

#### (10) 大会やコンクールなどへの参加及びその運営などへの参加参画

- 大会やコンクールなどへは、生徒や保護者などの主体的な判断・選択により、学校又は地域クラブのどちらか一つの立場で参加します。  
重複したエントリーはできません。
- 中学校体育連盟主催の大会などは、大会要項の参加資格などを確認し、学校又は地域クラブのどちらか一つの立場で参加します。
- 合唱や吹奏楽の大会及びコンクールなどへの参加は、大会要項の参加資格を確認し、学校又は地域クラブのどちらか一つの立場で参加します。
- 競技団体や外部団体主催の大会などは、大会要項の参加資格などを確認し、学校又は地域クラブのどちらか一つの立場で参加します。
- その他については、大会要項の参加資格に応じて判断し、学校又は地域クラブのどちらか一つの立場で参加します。
- 大会やコンクールなどの運営については、生徒及び指導者などの活動に支障がない場合は、積極的に参加参画します。

#### (11) 会員（保護者など）の負担の軽減

- クラブは、会員（保護者など）の支払う会費で運営することを原則とします。
- 会員（保護者など）の負担の軽減を図るため、内部監査や必要に応じて協議会などでの検討などを通して、クラブ運営の適正化についての情報提供に努めます。
- 伊那市が管理する公的施設などの会場及び設備用器具などの使用料については、関係条例などに則り、減免措置などをします。
- その他の負担軽減などについては、伊那市及び運営団体並びに実施主体との調整により、協議会などで検討するものとします。

## 4 その他

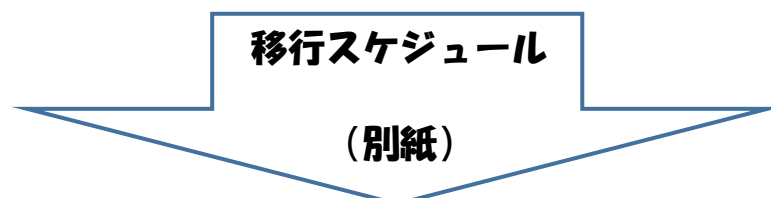
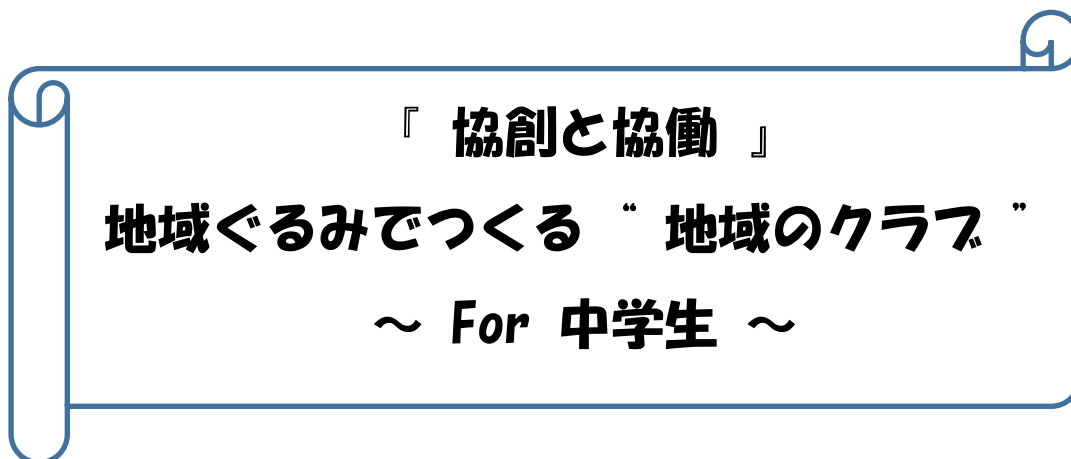
#### (1) 「伊那市立中学校部活動の地域移行協議会」の設置

- この協議会は、設置要綱に則り、令和6年度より、識見を有する者、地域スポーツ・文化芸術活動関係者、公民館関係者、保護者、校長などで構成します。
- この協議会は、部活動の地域移行に係る諸課題などの検討及び伊那市としての方針などを協議・検討する機関として、年数回開催します。

#### (2) 「伊那市立中学校部活動の地域移行協議会」推進委員会の設置

- 当面、教育委員会学校教育課・生涯学習課、文化スポーツ部文化交流課・スポーツ課の部署職員で構成します。
- 必要に応じて、他部局の職員を加えます。

- (3) 「伊那市立中学校部活動の地域移行協議会」準備委員会の設置
- 当面、推進委員会委員と各関係団体の代表者若干名で構成します。
  - 必要に応じて、他部局の職員及び関係他団体の職員を加えます。
- (4) 「伊那市立中学校部活動の地域移行に係る推進計画（ガイドライン）」の見直し
- 令和9年度より、可能な地域クラブの活動が実施されるよう推進します。  
準備が整った地域クラブは、順次活動を始めます。
  - 関係する組織などの実情、進捗状況などにより、必要に応じて計画を見直します。また、国及び県の指針・方針が改訂された場合も、計画を見直します。
  - 計画の見直しは、「伊那市立中学校部活動の地域移行協議会」で行います。
- (5) 移行スケジュール
- 移行スケジュールは、別紙のとおりとします。



(別紙) 伊那市立中学校部活動の地域移行に係るスケジュールなどについて

|            | ～R5 (～2023)                                                         | R6 (2024)                                                                                                                                          | R7 (2025)                                                                                                                                                                         | R8 (2026)                                                                                                                                         | R9 (2027)              |
|------------|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 伊那市協議会     | <ul style="list-style-type: none"><li>・庁内関係者懇談会</li></ul>           | <ul style="list-style-type: none"><li>・地域移行協議会の設置<br/>年3回開催（予定）</li><li>・推進計画（ガイドライン）提示</li><li>・地域移行を包含した伊那市の生涯学習ビジョンの策定</li></ul>                | <ul style="list-style-type: none"><li>・協議会 年2～3回開催（予定）<br/>地域移行の具体策、諸課題の検討</li><li>・ガイドライン、ビジョンの修正</li></ul>                                                                      | <ul style="list-style-type: none"><li>・協議会 年2～3回開催<br/>移行に係る諸課題の解決<br/>各種団体との連携</li></ul>                                                         | 4月1日より可能な部活動の地域クラブへの移行 |
| 意識調査環境整備調査 | <ul style="list-style-type: none"><li>・スポーツ協会、文化芸術協会等との懇談</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・アンケート（実態調査）<br/>児童生徒、保護者、教職員</li><li>・保護者等への説明<br/>部活動保護者会<br/>（PTA総会等）</li></ul>                           | <ul style="list-style-type: none"><li>・移行に係る必要な学校施設設備等の整備調査<br/>文化系クラブ会場の内部外部との隔離<br/>体育施設のセキュリティ確保</li></ul>                                                                     | <ul style="list-style-type: none"><li>・学校施設の環境整備<br/>特に、音楽室、美術室、理科室等の外部出入口確保とその他の教室等との隔離</li></ul>                                                |                        |
| クラブ立ち上げ    |                                                                     | <ul style="list-style-type: none"><li>・指導者の確保に向けて<br/>競技団体（スポーツ協会）<br/>文化芸術団体、市総合SC<br/>公民館運営審議会（振興協力会）<br/>高校、大学、専門学校<br/>企業、事業所、経済団体 等</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・保護者と文化スポーツ団体との懇談会<br/>（各部活動毎）</li><li>・現存地域クラブの把握と新たな地域クラブの立ち上げ</li><li>・市総合型SC、市スポ協会などとの打ち合わせ<br/>新たなクラブの加盟に向けて調整</li></ul>               | <ul style="list-style-type: none"><li>・理解促進のための方略検討</li><li>・現存クラブの確認と新規クラブの立ち上げへの支援</li></ul>                                                    |                        |
| 準備委員会その他   |                                                                     | <ul style="list-style-type: none"><li>・関係団体との連携<br/>総合型クラブ<br/>スポーツ協会<br/>文化芸術協会<br/>公民館運営審議会<br/>PTA連合会<br/>保護者会<br/>企業、高校、大学 等</li></ul>         | <ul style="list-style-type: none"><li>・地域クラブの発掘、新たな展開<br/>企業（社会人）クラブ・大学クラブ、私設教室（クラブ）、プロチーム 等</li><li>・リスク対策の検討<br/>ケガ、訴訟 等</li><li>・指導者の確保と報酬の検討</li><li>・兼職兼業に係る手続きの検討</li></ul> | <div>可能な部活動の地域クラブへの移行</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域クラブ立ち上げ等に係る支援<br/>組織、規約、指導者確保（報酬や研修）に係る情報提供等</li><li>・現存クラブの情報提供 等</li></ul> |                        |
|            |                                                                     |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                   |                        |